

# ビジネスで社会課題を解決

**クールジャパン**  
同社では、今年の1月末に中東で開催されているドバイ万博で自社開発の健康チェックシステムをプレゼンすることになっていきます。そのときのテーマとして採用されたのが「にかほ市健康プロジェクト」です。  
私としては中東およびアフリカ諸国に同社の技術とともに、にかほ市が紹介されることをうれしく思うと同時に、地方



上：にかほ市健康プロジェクト  
下：新型コロナウイルス抗原キット

先月、盛岡市に本社があるセルスペックト社長が来庁されました。市民の皆さんはあまり馴染みのない会社のように思いますが、市とは保健分野でもとても近い存在になっています。IoT技術による新しい健康チェックサービスを開発・製造・販売している同社は、最近では新型コロナウイルス抗原検査キットを開発し、市内の薬局でも販売しています。また、4年前から市の健康推進事業に協力いただいております。特に今年度からはプラウブリッツ秋田による「にかほ市健康プロジェクト」にも参加していただくなど、日頃から市と一緒に健康事業に取り組んでいただいております。

今回のドバイ万博で紹介される「にかほ市健康プロジェクト」は、私たちと同様に生活習慣病に悩む中東諸国をヘルステックで応援しようとするものです。あわせて、日本にとって知的価値の高い技術を新たな輸出品にして行うこととする取り組みでもあります。

の取り組みであっても先進的であれば世界を駆けることが出来るということにわくわく感を覚えています。  
10年ほど前から日本政府が進めている「クールジャパン戦略」は、日本ブランドを各国に売り込みながら日本の存在感を世界全域で高めて行こうとするものです。今回のセルスペックト社の件も、知的価値の高い分野での国際的影響力を高めようとする日本の成長戦略の1つでもあると思います。

**地域課題の解決に向けた  
官民一体の取り組み**  
昨年から実施している「にかほ市健康プロジェクト」は、健康寿命の延伸という課題を官民連携により解決していくこととする取り組みです。

にかほ市は、糖尿病などの生活習慣病の数が県平均を上回っています。高齢化率の上昇とともに保険料や医療費も年々増加しています。また、少子化とともに減少し続ける労働力の確保に向け、若年高齢者の健康を維持するための取り組みも求められています。このように健康分野だけでも解決しなければならぬ課題がたくさんあります。

市川雄次  
市長

**社会起業家という選択肢**  
近年、社会課題を自らのビジネスで解決しようとする若者の起業が増えていきます。社会起業家と言われる彼らは、それまでの社会運動によって世の中の課題を解決しようとする活動とは、利益を追求するという点で性質が異なります。もちろん、ビジネスによる方法のすべが課題解決において相応しいわけではありません。ただ、SDGsからもわかるように、社会課題をビジネスの中で解決するというのは考え方が広がりをみせています。社会起業家による活動と公益性を求め行政との距離はこれからもさらに近づいていくものと思うのです。

繰り返します。政府によるクールジャパンや起業大国への取り組みは、単に経済成長のためだけでなく、若者の起業により社会課題を解決して行こうとする動きとつながったものです。セルスペックト社長も言っています。「地域の課題を事業で解決するのが私の目標です」と。地域課題の解決の過程で新たな経済成長が見込まれることの意義は、これからの地方行政の中でこそ理解され、生かされていくべきであろうと私は考えています。



にかほ市長  
市川雄次



皆さん、こんにちは。仁賀保高校情報メディア科です。私たちは情報メディア科は、その名の通り「情報」を専門的に学んでいます。全国では20校しかなく、秋田県でも仁賀保高校にしかありません。当科では、必修科目のほかに情報科目のプログラミングやデザインなどの授業があります。さらに、掛魚祭りや花火大会などのポスター作成のほか、小学校でのプログラミング教室の手伝いなど地域に密着した活動も行っています。小学生に「プログラミングに興味を持った」と言われたことがとても嬉しかったです。

## 秋田県内唯一 ハイテク技術で 地域に密着

につけることができます。ネットシステムの授業では、パソコンやネットワークの仕組みなどの構成を学べるため、情報社会に必要なネットワーク技術者を目指すことができます。そんな当科が新設されたのは平成15年で、今年で18周年になります。これからも地域との関わりを大切にしながら、仁賀保高校情報メディア科でしか学べないことを将来に活かしていきけるように努力していきたいと思っています。

### 英語スピーチコンテスト全国大会へ!!

昨年秋に開催された全国商業高等学校英語スピーチコンテスト秋田県大会で、本校2年の加藤光稀さんが「The Rise of the Selfie」(自撮り)について堂々とスピーチをし、暗唱部門で第1位となり、県代表として1月9日に開催された全国大会への出場権を得ました。残念ながら、新型コロナウイルス感染症感染拡大の懸念から全国大会は辞退することになりましたが、本校では6年ぶりの快挙であり、今後の活躍が期待されます。



加藤光稀さん



秋田県立  
仁賀保高等学校

当校では、ボランティア活動による地域貢献、情報発信力強化による地域の活力向上など、地域課題の解決に向け「自分たちのまちを、未来を、楽しく面白く」していくためのアイデアを形にしていく取り組みを行っています。



仁高広報



市HP